論　文

萩城下町マラソンの大会満足度および再参加意図とイベント満足度との関係性

○井川　貴裕*1　岡崎　祐介*1　福田　一儀*1

キーワード：大会満足度、再参加意図、市民ランナー、スポーツイベント

1　はじめに

近年、スポーツベントを通して地域活性化を目的とし、スポーツ大会が多くの地域で開催されている。その中でも、手軽に始められるスポーツとしてランニングがブームとなっており、笹川スポーツ財団の調査では、2016年の時点で、467万人が週1回以上ジョギングやランニングを行っていることが明らかとなっている[1)]。また、岡本（2011）は、スポーツイベントへの参加などの「する」スポーツコンテンツの増加は旅行消費額拡大が期待でき、スポーツ・ツーリズム振興と地域のスポーツ振興を合わせた地域活性化策を考えていくべきであろうと述べている[2)]。以上のことから、近年増加している市民ランナーが参加できる地域のマラソン大会は、地域活性化にとって重要なイベントであり、イベントの参加者を増やすことは重要な課題であると考えられる。

先行研究において、備前ら（2016）は市民ランナーがマラソン大会の参加の制限となるものとして、「コスト」、「スケジュール」、「ロケーション」および「大会内容」があると報告している[3)]。また、北村ら（2000）は、生涯スポーツイベントにおいて、高い満足度が得られれば、その後の参加継続や運動の継続の動機づけになる可能性があることを示唆した[4)]。さらに、先森ら（2014）は、大会満足度が高まれば、再参加意図が高まることを報告している[5)]。以上のことから、生涯スポーツイベントを成功させ、参加者及びリピーターを増やす為には大会満足度を高めていくことが重要であるといえる。しかしながら、大会の給水、コース、広報など細分化した満足度（以下 イベント満足度）と大会満足度との関係性や、イベント満足度と大会の再参加意図との関係性を検討したものは少ない。

山口県萩市では毎年12月に「維新の里萩城下町マラソン（以下 城下町マラソン）」を開催している。2000年に開催された第1回大会以降、参加者は年々増加している。競技種目は5種目（ハーフマラソン、10km、5km、2km、ファミリー2km）のうち、性別、年代別の30部門から選ぶことができ、参加者の走力にあったカテゴリーを選択できる。特にハーフマラソンではコース中盤で城下町を中心に名所旧跡の立ち並ぶ歴史的景観の中を走ることが特徴である。過去の城下町マラソンのランナーに対して行った調査では、アンケートに回答した約9割が大会に満足したと回答している。さらに、城下町マラソン参加者は、過去2回以上参加しているランナーが多く、リピーターが多いことが明らかとなっている[6)]。そこで本研究は、大会満足度と再参加意図が高いと報告されている城下町マラソンに着目し、大会満足度および再参加意図とイベント満足度との関係性を明らかにすることを目的とした。

2　方法

1）調査対象

本研究は2016年12月11日に開催された城下町マラソンの参加ランナーの完走者を対象とした。出走者数、完走者数および完走率を表1に示した。萩城下町マラソンは、ハーフマラソン、10km、5km、2kmファミリー（2km）のコースがある。出走者数は計4,224名（ハーフマラソン：2,779名、10km：575名、5km：375名、2km：205名：ファミリー：290名）であった。完走者

*1　至誠館大学　ライフデザイン学部

は計 3,545 名、完走率は 83.9%（ハーフマラソン完走者 : 2297 名、完走率 : 82.7%、10km : 完走者 ; 575 名、完走率 : 83.8%、5km 完走者 : 311 名、完走率 82.9%、2km 完走者 : 187 名、完走率 : 91.2%、ファミリー完走者 : 270 名、完走率 : 93.1%）であった。

表-1　エントリー別出走者数、完走者数および　完走率

種目	出走者（人）	完走者（人）	完走率（%）
ハーフマラソン	2,779	2,297	82.7
10km	575	480	83.8
5km	375	311	82.9
2km	205	187	91.2
ファミリー	290	270	93.1
計	4,224	3,545	83.9

2 ）調査方法

城下町マラソンの参加者に対して、各種目のレース終了後に調査員が参加ランナーへ直接アンケートへの回答を依頼し、回収を行った。回収された質問紙のうち記述の無い項目があるものは分析対象から除外した。最終的な有効回答数は 423 票（10.0%）であった。

3 ）調査項目

本研究では、独自に作成した質問紙を使用した。調査項目は、個人属性（性別、年代、居住地、職業）、ランニング活動（エントリー種目、城下町マラソンの参加経験、参加回数）、再参加意図、大会満足度、イベント満足度（広報、コース、制限時間、給水所、トイレ、スタッフ、交流、沿道応援、観光情報、参加賞、参加費）である。再参加意図、大会満足度およびイベント満足度は 10 段階評価で回答を求めた。

4 ）統計処理

大会満足度および再参加意図を従属変数とし、それぞれのイベント満足度を独立変数とした、ステップワイズ法による重回帰分析により、大会満足度および再参加意図とイベント満足度との関係性を検証した。なお、すべてのデータ加工および統計処理解析には SPSS version17.0 for Windows を用いた。

3　結果

研究対象者の属性

本研究対象者の属性を表 2 に示した。サンプルの性別は、男性が 70.2%（297 名）、女性が 29.8%（126 名）を占めていた。年齢構成は、40 歳代が 31.0%（131 名）を占めており、30 歳代が 22.0%（93 名）、50 歳代が 18.0%（76 名）と合わせて 71.0%（300 名）であった。

表-2　サンプルの属性

		n	%
性別	男性	297	70.2
	女性	126	29.8
年齢	10 歳代	14	3.3
	20 歳代	65	15.4
	30 歳代	93	22.0
	40 歳代	131	31.0
	50 歳代	76	18.0
	60 歳代	38	9.0
	70 歳代	6	1.4

マラソン参加状況

本研究対象者のマラソン参加状況を表 3 に示した。有効回答数423 票のうち、ハーフマラソン出走者は276 名（65.2%）、10km は 73 名（17.3%）、5km は 39 名（9.2%）、2km は 3 名（0.7%）、ファミリーは 32 名（7.6%）であった。初めて萩城下町マラソンに参加したランナーは 36.9% (156 名)おり、過去に参加したことがあると回答したランナーは 63.1%（267 名）であった。その

うち、2 回目の大会参加が 17.4%で最も多くを占めていた。17 回大会すべてに参加したと回答したランナーは 1 名であった。

表-3　マラソン参加状況

		n	%
種目	ハーフマラソン	276	65.2
	10km	73	17.3
	5km	39	9.2
	2km	3	0.7
	ファミリー	32	7.6
参加	初参加者	156	36.9
	リピーター	267	63.1

大会満足度とイベント満足度の関係

表 4 に大会満足度およびイベント満足度の平均値および標準偏差を示した。分析の結果、大会満足度およびイベント満足度を従属変数とするステップワイズ重回帰分析において、第 1 に「スタッフ」($p<0.01$)、第 2 に「コース」($p<0.01$)、第 3 に「広報」($p<0.01$)、第 4 に「制限時間」($p<0.05$) が回帰式に投入され 47.5% の分散が説明され、以下の式が算出された。

$$y = 0.296x_1 + 0.202x_2 + 0.139x_3 + 0.092x_4 + 1.954$$

そして、「スタッフ」、「コース」、「広報」および「制限時間」の満足度が高いほど、大会満足度が高いという関係性が明らかとなった。

再参加意図とイベント満足度の関係

表 4 に再参加意図の平均値および標準偏差を示した。分析の結果、再参加意図を従属変数とするステップワイズ重回帰分析において、第 1 に「広報」($p<0.01$)、第 2 に「参加費」($p<0.01$)、第 3 に「スタッフ」($p<0.01$) が回帰式に投入され、15.9%の分散が説明され、以下の式が算出された。

$$y = 0.197x_1 + 0.133x_2 + 0.126x_3 + 3.650$$

そして、「広報」、「参加費」および「スタッフ」の満足度が高いほど、再参加意図が高いという関係性が明らかとなった。

表-4　大会満足度、再参加意図およびイベント満足度

	平均値	標準偏差
大会満足度	6.27	0.905
再参加意図	5.19	1.10
広報	5.38	1.288
コース	6.03	1.135
制限時間	5.83	1.29
給水所	5.67	1.42
トイレ	5.03	1.59
スタッフ	6.12	1.08
交流	5.13	1.42
沿道応援	6.15	1.10
観光情報	5.14	1.37
参加賞	5.18	1.48

4　考察

本研究は、城下町マラソンを対象として、先行研究により、イベントの成功やリピーター獲得に重要とされている満足度および再参加意図とイベント満足度との関係性を明らかにすることを目的とした。分析の結果、第 1 に、イベント満足度のうち、「スタッフ」「コース」「広報」および「制限時間」が高いほど大会満足度が高いという関係性が明らかとなり、第 2 に、「広報」、「参加費」および「スタッフ」の満足度が高いほど、再参加意図が高いという関係性が明らかとなった。

大会満足度および再参加意図は多くのスポーツイベントでアンケート項目の中に入れられており、イベントの成功やリピーター獲得にとって重要な要因と考えられている。そこで本研究では、過去の報告より高い満足度と再参加意図が得られている城下町マラソンにおいて、満足度および再参加意図とイベント満足度と

の関係性を明らかにすることを試みた。

大会満足度において、山口ら（2011）は、大会参加者はボランティアの対応に魅力を感じており、イベント主催者はランナーとボランティアが交流できる場を提供する必要があると述べている[7)]。本研究の結果において、大会満足度に最も影響を与えている項目として「スタッフ」が選択された。これは、先行研究と同様に、大会を通してランナーとスタッフの関りが大きな要因であったと考えられる。参加者からの自由記述の感想においても、「スタッフの対応が丁寧で素晴らしい」という感想がみられた。大会を成功に近づけるためにも、今後も大会スタッフの充実を図っていくことが重要である。また、「コース」に関して、松本ら（1991）は、ホノルルマラソンにおいては、「コース」の満足度が他の項目よりも低いと報告していた[8)]。しかし、本研究においては、先行研究と逆の結果となった。城下町マラソンは、山や川沿いなどの自然の中を走り、特にハーフマラソンにおいてコース中盤で城下町を中心に名所旧跡の立ち並ぶ歴史的景観の中を走ることが特徴である。城下町マラソンの特徴である歴史的景観の中を走ること。また、回帰式に「広報」が投入されたことより、大会満足度は、ホームページやチラシの充実など、大会受付開始時より決定する可能性が示唆された。「制限時間」においては、他のマラソン大会とほぼ変わらないにも関わらず、回帰式に投入された。本調査は、全体の完走者（83.9%）を対象に行ったため、完走できなかった参加者への調査は行っていない。これに関しては、完走者以外への調査を継続して行っていかなければならない。

再参加意図においては、「広報」および「参加費」大きく影響している結果となった。先森ら（2014）は、「大会の愛着・広報」の満足度と地域愛着との間に有意な正の相関関係が見られ、それが再参加意図に影響を及ぼしていると報告している[5)]。本研究の結果は、先行研究を支持するものとなった。これらは大会当日ではなく、事前の設定が必要な項目であるため、再参加意図を高めていくためには、大会受付前の準備が必要であることが示唆された。まあた、大会満足度を従属変数とした重回帰分析と同様に、「スタッフ」も再参加意図に影響を与えている。城下町マラソンは、「おもてなし」に力を入れており、スタッフの参加者への対応が影響していると考えられる。

5　まとめ

本研究は、城下町マラソンに着目し、大会満足度および再参加意図とイベント満足度との関係性を明らかにすることを目的とした。結果から、「スタッフ」「コース」「広報」および「制限時間」が高ければ高いほど大会満足度が高いことが明らかとなった。再参加意図においては、「広報」「参加費」および「スタッフ」の満足度が高ければ高いほど再参加意図が高いことが示された。以上のことから、大会開始前から、広報活動や参加費の設定により、大会満足度および再参加意図が決定する可能性が示唆された。また、大会満足度および再参加意図を高めていくためには、スタッフの対応も重要な要素であることが明らかとなった。

6　謝辞

本研究のデータ収集にあたっては、維新の里 萩城下町マラソン実行員会並びに至誠館大学の学生諸君に多大な協力をいただいた。ここに感謝の意を表する。

[参考文献]

1) 笹川スポーツ財団；スポーツライフ・データ 2016 スポーツライフに関する調査報告書，2016
2) 岡本純也；地域活性化策としてのスポーツ・ツーリズムの可能性，一橋大学スポーツ研究，　30：60-66，　2011
3) 備前嘉文、二宮浩彰、庄子博人；市民マラソンランナーが都市型市民マラソン大会への参加を検討するにあたり生じる構造的制約，生涯スポーツ学研究，30：1-14, 2016

4) 北村尚浩、川西正志、波多野義郎、柳敏晴、萩裕美子、前田博子、野川春夫；生涯スポーツイベント参加者の大会満足度：菜の花マラソン参加者のスポーツライフスタイルによる比較，鹿屋体育大学学術研究紀要，　23：25-31, 2000
5) 先森仁、秋吉遼子、山口泰雄；大会満足度と地域愛着が市民マラソンの再参加意図に与える影響に関する研究-県内・県外参加者に着目して-，神戸大学大学院人間発達環境学研究科研究紀要，8（1）：107-113，2014
6) 岡崎祐介、福田一儀；第16回維新の里　萩城下町マラソンに関する調査報告，至誠館大学研究紀要，4，71-82
7) 山口志郎、佐々木朋子、山口泰雄、野川春夫；マラソンランナーの参加動機とPush-Pull要因に関する研究：NAHAマラソンにおける県内・県外参加者に着目して，神戸大学大学院人間発達環境学研究科研究紀要，4（2）:57-67，2011
8) 松本耕二、野川春夫；ホノルルマラソン仮想者の満足要因の分析-日本人完走者を対象として-，レクリエーション研究，25：38-39，1991

Examining Effects of Overall Satisfaction and Event Satisfaction on Intention to Re-Participate in the Event: A Case Study of Hagi Marathon

Takahiro IGAWA　Yusuke OKAZAKI　Kazunori FUKUDA

abstract : The purpose of this study was to examine effects of overall satisfaction and event satisfaction on intention to re-participate in the event. Participants (n=423) were recruited from Hagi marathon, a local sporting event in Japan. Utilized analysis was regression analysis in which overall satisfaction and event satisfaction were set as independent variables and re-participation was set as a dependent variable. As a result, of event satisfaction, promotion, entry fees and staffs were positively influenced intention to re-participate in the event. It was considered that this study contributed to suggesting how the organization of this event will improve participants' satisfaction leading to their future participation.